

秋にうたう

Joint Concert '93

京都混声合唱団 女声合唱団「花野」



平成5年 **10**月**5**日(火) 開演：PM7時

●会場 長岡京記念文化会館

ご 挨拶

京都混声合唱団

異常気象の夏も過ぎやっとな爽やかな秋の時候となりました一夕、ご多忙の中を私達の演奏会にお運び頂き有難うございました。

京都混声合唱団も常任指揮者に蔵田裕行先生をお迎えして3年目、新生“京混”として厳しくも温かいご指導の下に団員一同研鑽を積んで参りました。

定期演奏会ではオーケストラ伴奏の曲を取り上げてきましたが今回のステージではピアノ、オルガン、ハープの構成となっています。オーケストラにカバーされない生の音が皆様のお耳に届きますので、心のハーモニーを心地よく聞いて頂けるよう練習に励んで参りました。

なお来春にドヴォルザークの「レクイエム」、平成7年秋には創立70周年記念演奏会（曲目未定）を予定しています。皆様の忌憚なきご批判、ご斧正を支えとして一層の努力を重ね、ご期待に応えるべく高次の前進を続ける所存でございますので変わらぬご支援を切にお願い申し上げます。

末尾になりましたがジョイントコンサートにご賛同頂きました女声合唱団「花野」のご厚情に深謝申し上げます。

女声合唱団「花野」

今宵は、長岡京記念文化会館に足をお運び下さいまして有難うございます。

私達女声合唱団「花野」の団員は、主宰者であり、指揮者である田村先生の温なお人柄と、合唱に寄せるひたむきな情熱に接しながら、先生の求められる音楽に少しでも近づけるようにと願い、そして歌うことに共感し、和やかに、一人一人がお互いを思いやりながら明るく楽しい合唱活動を続けています。

このたびは、京都の合唱界の伝統ある「京都混声合唱団」より、思いがけずジョイント・コンサートのお誘いをいただき、ご一緒のステージを踏む機会を得ました。

団員一同これを大変な喜びに感じ、今日の日を楽しみに励んでまいりました。

どうぞ、最後までゆっくりお聴き下さいまして御高評賜りますようお願い申し上げます。

本日はありがとうございました。

プログラム

- 1st stage 京都混声合唱団
Inno a Maria Vergine 作曲 Frantz Liszt
指揮 蔵田 裕行
ハープ 西垣 英子
オルガン 押谷 扶美江
ピアノ 澤田 昌子
松園 洋二
- 2nd stage 女声合唱団「花野」
萩原英彦作品集より 作曲 萩原 英彦
ふきのとう (作詞 中村千栄子) 指揮 田村 忠男
もうすぐ春だね (作詞 両角 享子) ピアノ 三上 佳子
鰯の上 (作詞 三好 達治)
冬枯れ (作詞 周郷 博)
小さな川 (作詞 周郷 博)
- 3rd stage 京都混声合唱団
合唱組曲 「海の童話」 作曲 中田 喜直
砂山の夜 作詞 中村 千栄子
海の童話 指揮 蔵田 裕行
ぐみの実は ひとり ピアノ 澤田 昌子
冬の海
夕映えの海
船出
- 休 憩 -----
- 4th stage 女声合唱団「花野」
女声合唱組曲「水のいのち」 作曲 高田 三郎
雨 作詞 高野 喜久雄
水たまり 指揮 田村 忠男
川 ピアノ 三上 佳子
海
海よ
- 5th stage 京都混声合唱団
唱歌の四季 編曲 三善 晃
朧月夜 指揮 蔵田 裕行
茶摘 ピアノ 澤田 昌子
紅葉 松園 洋二
雪
夕焼小焼
- Final stage 合同演奏
女声合唱 歌のいのち 作曲 湯山 昭
作詞 関根 榮一 指揮 田村 忠男
ピアノ 三上 佳子
混声合唱 夕なぎの海 作曲 寺島 尚彦
作詞 関根 榮一 指揮 蔵田 裕行
ピアノ 澤田 昌子

曲 目 解 説

1st stage : 聖母マリア賛歌

パイプオルガンとハープ、またはハルモニウムとピアノ（四手）とハープ伴奏による混声合唱との副題を持つこの「マリア賛歌」は、1869年ローマにて作曲された。

テキストはラテン語典礼文ではなく、イタリア語の四行詩によっている。

曲は四声のユニゾン（同一旋律）を基調にすえ、時にグレゴリアン聖歌風のア・カペラ（無伴奏）唱法を織り込みながら、ハープの伴奏にのってフォーレの「レクイエム」風のロマンティックな展開を見せる。

演奏時間10分ほどながら、捨て難い味わいを持っている。

2nd stage : 萩原英彦作品集より

叙情性豊かな萩原英彦の作品は女声合唱曲で多くうたわれていますが、今日聴いていただきますのは、それらのなかでも特に美しい透明感のあるやさしい作品です。

「ふきのとう」は1993年度の、「もうすぐ春だね」は1984年度の全日本合唱連盟主催合唱コンクールの、いずれも課題曲のひとつです。

「甃のうえ」は大正15年の三好達治の詩ですが、作者の自注によると、「この寺は現実にはない夢のような場所、とそういうふうを考えてもらわねば困る」とあります。甃（いし）…石畳、敷石のことですが、花散る春を惜しみつつ、寺の石畳をひとり歩む……けだるい春の甘さと孤独を空想の寺の中にイメージしたものでしょう。

「冬枯れ」「小さな川」は周郷博の詩によるものですが、なにげない言葉の中に、自然と人間のかかわりを感じさせるものです。

〔本日使用しました電子オルガンは松下電器産業株式会社のご厚意により提供して頂きました〕
同社製SX-FN3型です

3rd stage : 海の童話

高田木曜会合唱団の25周年記念演奏会の為に作曲された曲です。人は誰れもが心の中に自分の海を持っている。時に優しく、時に激しく、うねり、ささやき、朝日にきらめき、夕映えには波間に金色の星をちりばめ、人の心に永遠の広がりをもたらしてくれる。そんな心象風景が、中田喜直独特の優しくも厳しい和音構成によって展開されて行きます。

4th stage : 水のいのち

高田三郎のこの組曲は、1964年初演以来現在まで、女声合唱の中で最も親しまれているものの一つですので、一度はお聴きになったことがあるのではないのでしょうか。雨からみずたまり、そして川、海へ流れていく水の一生は、あたかも私達のいのちの一生でもあるかのよう。「何故さかのぼれないか……」いのちを生み蘇らせる水の問いかけは、とどまることの出来ないいのちとしての私達自身の問いでもあります。詩にぴったり寄りそった曲の展開とともに、たえず語りかけてくる詩の言葉の一語一語を、私達のものとして大切に受けとめながら、そうしたものを今夕の演奏で皆様にお伝えできれば幸いです。

5th stage : 唱歌の四季

誰れもが知っている歌、誰れもがうたえる歌。これらを口づさむ時、誰れもが日本の色を、心を思い浮かべます。本来は東京混声合唱団のために作られた合唱曲なので、唱歌とはいえ声楽的にも高度な技術が要求され、ピアノパートも伴奏の概念を超え二台のピアノによって華やかな意匠がこらされています。

~~~~~ プロフィール ~~~~~

指揮 蔵田裕行 (くらた ひろゆき)

東京芸術大学声楽科卒業。

東京芸術大学大学院音楽研究科独唱専攻修了。

オーストリア政府給費留学生としてウィーン国立音楽大学に留学。

N・レーヴェ、中山悌一、W・シュタインブリュック、E・ヴェルバ、J・ヴィットの各氏に師事。

20数回におよぶリサイタルや数多くのオラトリオ、オペラに出演。

京都市立芸術大学教授。関西二期会常任理事。日本シューベルト協会理事。

日本フーゴ・ヴォルフ協会同人。

指揮 田村忠男 (たむら ただお)

東京芸術大学声楽科卒業。

ジュリアード音楽院留学。

畑中良輔、木下保、バランドーニ、H・ハインツの各氏に師事。

日本歌曲、ドイツ歌曲によるリサイタル開催。

女声合唱団「花野」主宰。

モルゲングランツ少年少女合唱団主宰。

京都女子大学教授。

ピアノ 澤田昌子 (さわだ しょうこ)

京都市立芸術大学音楽部ピアノ科専修卒業。

山田淳子、岩淵洋子、マックス・エッガー、春山操の各氏に師事。

ザルツブルグ・モーツァルテウム音楽院夏季国際音楽アカデミーに参加。

セルジオ・ペルティカローリ教授の講座を修了。アカデミーコンサートに出演。

ピアノ 三上佳子 (みかみ よしこ)

同志社女子大学学芸学部音楽学科ピアノ専攻卒業。

同学科特別専修コース修了。

京都音楽協会賞受賞。

関西音楽大学協会主催新人演奏会、フレッシュアーティスト・コンサート、

協奏曲の夕べ、室内楽の夕べ等に出演、関西フィル他と共演。

バレエその他の伴奏ピアニストとしても活動。

椿久美子、有賀のゆり、スヴェトラ・プロティッチの各氏に師事。

ピアノ 松園洋二 (まつその ようじ)

京都府立向陽高校卒業。

京都市立芸術大学音楽学部作曲専修卒業。

ハープ 西垣英子 (にしがき えいこ)

イタリア政府給費留学生として、ローマのサンタチェチリア音楽院を最優秀で卒業。

東京芸術大学大学院ハープ科修了。

ヨセフ・モルナール、桑島すみれ、アルベルタ・スリアーニ、ジャクリーヌ・ボローの各氏に師事。

神戸山手女子高校音楽科、神戸女学院大学講師。

オルガン 押谷扶美江 (おしたに ふみえ)

ビクターテクニクス音楽教室のスタッフでヴァイス・ディレクター。

オーディション審査員、センター講師、コンサートディレクター等の重要な役目をはたしながら、プレーヤーとして、またアレンジャーとして活躍している。

京都混声合唱団

1926年、京都在住のプロの音楽家による合唱団として発足。戦時中一時休会、昭和20年に再活動を始め、この時よりアマチュア合唱団としてスタートし、今日に至る。

現在の団員は十代から六十代までと幅広く、合唱を愛好する人ならだれでも入団出来る。長い団史のなかで定期演奏会を振り返ると、ヘンデル・バッハ・ハイドン・モーツァルトなどのおなじみの古典曲から現代作曲家・邦人作曲家まで宗教曲を中心に取り上げてきた。一方、夏の合宿を兼ねた、小演奏旅行ではポピュラー曲など幅広いレパートリーを披露している。

1991年より常任指揮者に京都市立芸術大学の蔵田裕行先生を迎え、また、ヴォイストレーナーとして同大学、三井ツヤ子先生を迎え、一層の技術向上に励んでいる。



女声合唱団「花野」

1980年、指揮者である田村忠男先生が主宰され、20数人で産声をあげました。極めて和やかな雰囲気の中で楽しく歌える合唱団。18才以上の女性ならどなたでも大歓迎です。

結成以来6回のコンサート、第45回関西合唱コンクールで一般の部入賞。今年の4月にはアンサンブル、プラティスラヴァ・ゾリスデン（スロバキア）とペルゴレージのスターバト・マーテルを共演。そのほか、他団体との交流、ラジオ出演、老人ホーム、病院への訪問演奏等、幅広い演奏活動を行っています。



京都混声合唱団

ソプラノ

芦田紀子	安達陽子	牛丸玲子	大江章代
片岡朝子	川口由麗江	河村千賀子	坂和本佳子
柴田了子	鈴木由利子	萩原日出子	橋吉紀子
分木須賀子	松田麗子	三島ひろ子	

アルト

糸岡彩子	彌永裕子	浦田鮎子	太田恵子
大西博子	岡本直子	小川映子	塩谷比佐子
杉本香子	千代芙紗子	内藤勢津子	西宮允周子
八木弘美		松本寿香代	

テナー

岩室史英	北川正明	清水好文	中川浩永
中山豊	前田恒倫	山本博	

ベース

赤山禮應	糸岡晃	牛丸絃一	桂京造
近藤野	後野宏明	庄野光利	杉本誠一郎
仲野孚	林英夫	平松	吉田正

女声合唱団「花野」

ソプラノ

井上由紀子	上田ひで	角木邦子	菊地紹子
佐原しげ子	高木洋子	高志裕子	橋西知子
田中葉子	田村優佳子	辻平野々子	高中温子
西沢ユウ子	岡由不二子	山下雅子	松田節美
三上真紀子	森田		

メゾソプラノ

芦田喜子	飯田京子	池田寿子	糸井登和子
今森京子	老中節子	岡三保子	岡内ますみ
加治英子	桑原和子	玉瀬洋子	西田幸子
竹内昌枝	谷森和子	山田和子	広田由紀子
藤沢真理子			

アルト

上野邦子	片山真理子	衣川恭子	小杉谷由美
佐野和恵子	塩見祇子	嶋谷公美子	本井美和子
鈴木置照喜久子	住友村光純	高井名正子	藤川良美
新松尾	村田		